皇朝會話編

西野古海著

全

東京府書籍館
大日本教育會書籍部
二四函 一架 七五號 一冊
TOKIOFU LIBRARY
498
一本

西野古海著

皇朝會話編全

明治八年第二月刊

二書堂

皇朝會話篇

明治八年二月刊

西野古海著

第一章

今日　明日　昨日　昨夜　今晩

好き　強き　天氣　雨　風　吹く

降りる　暑き　寒き　涼き　冷き。

暖き　私　汝　彼　私等　汝等

西野古海著

皇朝會話編 全

明治八年第二月刊

二書堂

東京帝國大學圖書之印
TOKYO 特42 498

皇朝會話篇

第一章

今日　明日　昨日　昨夜　今晩

好　強　天氣　雨　風　吹

降　暑　寒　涼　冷

暖　私　汝　彼　私等　汝等

明治八年文部省入付

西野古海著

彼等　何　何處　此處　其處

彼處　夫　是　余程　歸り　往く

出る　見る　學校　居る　今朝　成る

昨晩

○今日ハ、好き天氣で、ございます

○明日も、天氣で、有ませう

○昨日ハ、強き風ゞ吹きました

○昨夜ハ、雨ゞ、降りました

○今日ハ、暑う、有ます

○今朝ハ、暖で、あります

○昨晩ハ、寒う、有ました

○今晩ハ、余程、涼しく、成ました

○冷き風ゞ、吹きます

○私ハ、學校へ、往きます

○汝ハ、何處へ、御出なさるる

○彼ハ、何處ヲ、居りましう

○私共ハ、歸りませう

○汝等ハ、何を、なさるう

○彼等ハ、何を致し、ますう

○彼女子ハ、此處ヲ、居ません

○夫ハ、何で、有ましを

○是を、御見なさい

第二章

如何　快晴　後　多分　曇　雷

鳴り　雪　傘　持　雨具　合羽

最う　止む　濡れ　靜　雲　空

道　惡き　待つ　少し　切れ

大陽　晴れ　知

○天氣ハ、如何で、有ませう
○快晴ふ、成ませう
○後ふハ、晴ます。
○曇て、きまし〜と
○今晩ハ、多分雨ガ降ませう
○雷ガ鳴ります
○今日の風ハ寒く有ます
○余程、冷てきました

○雪ガ、降るゝも、知れ、ません
○私ハ傘を持て居ます
○汝ハ、雨具を持て居ませう
○私ハ合羽を持て居ます
○彼ハ濡れました ろう
○最う雨ガ止ました
○風も静ふ成りました
○雲ガ切れました

○空ゲ、晴て、き、ました。
○道ハ、悪くハ、成りました。
○少し、御待、なさいま
○大陽ゲ、見えて、きました。

第三章

機嫌　無事　仕合　朝夕　伯父

伯母　叔父　叔母　兄　弟　姉
妹　父　母　住居　一昨日　叅
合　筆　墨　紙　硯　机　讀
書　習　書物　手習　算術
在所　出来　来

○御機嫌、よう、ざいました。
○私ハ、無事で、有ました。

○汝ハ、如何でゞざいませ
○仕合ハ、無事で、有ませ
○朝夕ハ、寒う、有ませ
○汝ハ、昨日、何處へ、御出ろ
○私ハ、伯父の方へ、參り、ました
○汝の、姉ハ、何處ハ、御住居、なさるろ
○彼の、伯母ハ、一昨日、来ました
○私の、妹ハ、叔母の方ハ、居ませ

○私、昨晩、汝の弟ハ、合ひまして
○私の、兄ハ、叔父と、在所へ、往きました
○私ハ、筆を、父ハ、貰ひ、まして
○汝ハ、墨を、持て、居ませろ
○私ハ、墨と、紙を、母ハ、貰ひ、まして
○彼ハ、硯をもつて、居ませ
○私ハ、手習を、致しませ
○汝ハ、書物を、讀ませろ

○彼ハ、算術を、學びませう

○此机ハ、好く、出来て、をります

第四章

旗　揚　素讀　始　買　早く

草紙　未　單語　會話　一週

前　片假名　楷書　行書　草書

第三

加減　乘　石筆　石盤　運動

諳誦　今　終　呉

○學校へ、旗が、揚り、ます

○最う、素讀が、初り、ました

○早く、學校へ、往きませう

○汝、草紙を、持て、御出、なさい

○私、書物を、買ひ、ました

○彼ハ、昨日より、算術を、習ひました

○汝ハ、單話を、御讀、なさい

○私ハ、昨日、第三の、單語を、讀み、ました

○今日ハ、諳誦、致します

○彼ハ、會話を、讀みました

○學校で、讀み、ました

○私、一週前ハ、片假名を、習ひ、ました

○今、楷書を、習て、居ます

○汝ハ、行書を、習ひ、ました。○未だ

○彼ハ、草書を、習て、居ます

○汝ハ、算術を、學ひ、ました。

○私、昨日、加減算ハ、終り、ました。○明日より、乘算を、習ひ、ます

○汝ハ、石盤を、もつて、居ますか

○私ハ、石盤と、石筆を、兄が、呉れ、ました

○少し、運動を、致しませう

第五章

時　何時　分　時計　過る　打ち
丁度　只今　近うく　頃　先刻
家　遅い　急ぎ　何故

○時ハ、何時デ、有ますせう

○汝の、時計を、御見、なさつ
○私ハ、もちません
○私の、時計ハ、早過る
○汝のと、私のハ、よく、合ひます
○九時で、有ませう
○十時、三十二分で、有ます
○十二時ゐ、五分、早う、有ます
○一時、少し、過ぎ、ます

○丁度、二時で、有ました
○只今、三時を、打ました
○最う、四時ハ、近う、有ました
○五時頃で、有ました
○六時、少し前で、有ました
○汝ハ、いつも、早い
○彼ハ、未だ、来ません
○私ハ、急ぐ、来ました

○先刻より、待て、居ました
○汝ハ、何時ハ、家を、出ましたら
○彼等ハ、何故、遅ろろう

第六章

其 止 違 直 休 早朝
起 常 眠 熊 寝 而て

身体（からだ）　健康（けんこう）　思（おも）ひ

○私ハ、其を、致しませう

○汝ハ、御止（おやめ）なさい

○汝ハ、出来（でき）ませうか

○彼ハ、出来（でき）ませう

○彼等ハ、違（ちが）て、居（ゐ）ませう

○彼ハ、何故、来なかろう

○私ハ、直ぐ、致しました

○私ハ、早く、致そうと、思ひました

○明日ハ、早朝より、初免ませう

○急で、御起なさい

○未だ、早過る○只今、起ました

○私ハ、常ハ、五時、三十分ハ、起ました

○汝ハ、眠く、有ませう

○彼等ハ、能く、寝ました

○彼ハ、よく、眠て、居ます
○彼女子ハ、眠ずつて、居る
○彼等ハ、今、寝ました
○彼ハ、又直ぐ寝ます
○汝ハ、夜早く、御休みなさゐ○而して、
朝、早く、御起なさゐ
○朝早く、起れば、身体が、健康ふ、成りま
す

第七章

花愛　梅花　盛　櫻　香
庭園　追々　咲　一處　供
同伴　連　同道　皆　此節
満開　午後　最　限　極

○汝ハ、花を、愛をう

○私、花を、愛しまを

○私、梅花の、香を、最も、愛しまを

○梅ハ、今盛りで、有まを

○汝の、御庭ハ、如何で、有まを

○櫻の、花ゲ、追々、咲まを

○私ハ、櫻を、愛しまを

○花ハ、櫻ホ、限りまを

○明日ハ、天氣ちゝふバ、花園へ、參りませう

○私ハ、兄と、同道、致しまを

○私等も、御連なさい

○御同伴、致しませう

○御供、致しませう

○一處ホ、往きませう

○此節ハ、花ゲ、皆咲、まったろう

○最う、滿閑致し、ます〻多

○午後より、參り、ませう

○夫ハ、早過ます○早くハ、有ません

○一時よりと、極め、ませう

○彼處ヘ、待て、居ます

第八章

用　散歩　別荘　隙　船　馬

貸し　秘藏　乘　甚　駈る　肥

沓　鞭　鞭　誠　歩行　丈度

○汝ハ、何ウ、用ゲ、有ます

○何の、用で、有ます

○私ハ、散歩致そうと、思ひます

○私ハ、別荘へ、往きます

○汝ハ、隙なくバ、如何○一處ヘ、御出、なさい

○汝ハ、船で、御出、なさるか

○私ハ、運動のため、歩行しませ

○私ハ、馬ヘ、乗て、往きませ

○私ハ、馬を、御貸なさいな

○此馬ハ、兄の、秘藏で、有ませ

○汝ハ、馬ガ、御好きか

○私ハ、甚馬を愛しませ

○馬ヘ、乗る事ハ、よき、運動で、有ませ

○早く、御支度、なさいな

○汝の、馬ハ、よく肥て、居りませ

○私の、馬ハ、早く、駈ませ

○汝、鞭を、御忘れ、なさるか

○私ハ、沓を、打へ、まして、さ

○汝の、鞍ハ、誠ヘ、よく、出来で、ゐませ

○此鞍ハ乗るホ加減がよく有ます

第九章

讀書　精出ス　道理物
學問　幼年　愚善人　貴ク
賤キ　貧ク　冨貴　賢き　智恵
務　緊要　洋語　洋學　教師

拜命　地理書　輪講　地圖　聞
用法　地球儀　物理學　試撿
濟む　各科　温習　毎日　講義

○汝ハ、毎日、何を、務むるゥ
○私ハ讀ミ、書を、務めます
○讀ミ、書を、せぬ人ハ、物の、道理を、ちる事ガ、出来、ません

○學問ハ、幼年の、時ハ、精出して、致さねバ、なりません

○學問の、出来ぬ、人ハ、皆愚て、ありまさん

○學問を致さねバ善人ハハなりません

○貴き、人も、學でなければ、賤しき、ものと、なりまさ

○貧しき、ものも、學べバ、富貴ハ、なりまさ

○賤きものも、學問の、出来る、人ハ、賢き、智恵が、ありまさ

○智恵の、ある人ハ、むゝし、學問を、務た、人で、ありまさ

○學問ハ、人の、緊要なる、務めで、有まさ

○私ハ、六才より、小學へ、入校致し、まし

た○今ハ、洋語を、學で、居まさ

○私の、兄ハ、洋學の、教師ヲ、拜命、致シマシタ

○汝ハ、地理書を、學びしか

○私ハ、地理書の、輪講を、致シマシタ

○私、地圖の、用法を、學び、マシタ

○地球儀ハ、學校ヲ、有マセ

○私、物理學の、講義を、聞マシタ

○汝ハ、試撿ガ、濟マシタか

○私ハ、一週前ヲ、各科の、温習を、致シマシタ

第十章

書籍　合衆國　歴史　萬國史

柔順　裁縫　功者　幼少　誰

英學　従弟　獨乙　佛學　漢學

文章　綴詩　南京　休課　氏

先生

○此、書籍ハ、何の、書で、有ます

○是ハ、合衆國、歴史で、有ます

○此、萬國史ハ、誰の で、有ます

○是ハ、私の、妹ので、有ます

○汝の、妹ハ、誠ニ、素順で、有ます

○裁縫ガ、功者で、有ます

○彼女ハ、幼少より、裁縫ガ、好きで、有ました

○誰ニ、御習ひ、なされさろ

○彼女ハ、姉ニ、習ひ、ました

○彼等の、母ハ、書ガ、よく、出来ます

○彼女の、母ハ、讀書ガ、好きで、有ます

○汝の、弟ハ、英語ガ、出来、ますろ

○私の、従弟ハ、獨乙語を、學で、居ます

○彼の、姉ハ、佛學ガ、出来ます

○私の、叔父ハ、漢學を、よく、致します

○彼ハ、文章を、誠ニ、よく、綴ります

○彼ハ、詩を、南京人ニ、學び、ました

○私ハ、英の、語學を、マスドル先生ニ、學び、ました

○米國の、ヒストリイ氏ガ、歴史の、講義ハ、

○明日ハ、休課で、有ます

第十一章

行儀　少年　事　親　幸行　不幸

幸　力　竭　罪人　得る　正直

娘　教　深切　敬　寛大　夫

仁恵　深き　妻　貞節　正　割烹

巧　發明　夫婦　配偶　才子
甥　姪　眞直　家産　怠る　職業
終ふ　勵　睦

○彼ハ、行儀の、よき、少年で、有ます
○彼少年ハ、誠ふ、よく、親ふ、事へ、ます
○彼等ハ、父母ふ、孝行な、ものでは、有ます
○孝行な人ハ、幸を、得ます

○不孝なるものハ、大なる、罪人で、有ます
○少年等ハ、務て、孝行ふ、力を、竭さねバ、
○なりません
○彼の、父ハ、正直な、人で、有ます
○彼の、母ハ、深切ふ、娘を、教へ、ます
○彼の、姉ハ、よく、夫ふ、事へ、ます
○彼等の、弟ハ、兄を、よく、敬ひ、ます

○彼等の、兄弟ハ、誠ふ、睦じく、有ます
○彼の、夫ハ、仁恵、深き、男で、有ます
○彼の、妻ハ、貞節の、正しき、女で、有ます
○彼等、夫婦ハ、よき、配偶で、有ます
○彼の、姉ハ、割烹を、巧ふ、致します
○彼等の、姉妹ハ、發明なもので、有ます
○彼の、甥ハ、才子で、あります
○彼の、姪ハ、真直で、あります

○家産を、怠るものハ、貧しく、有ます
○職を、勵む、人ハ、終ふ、幸を、得ます

第十二章

食事　食物　嗜
魚肉　酒　滋養
併　多　飲　食
獣肉　鳥肉
遥　劣　穀菜
火酒　類　害

多量　温國　寒國　適宜　肝要
淡薄　乳汁　茶　架菲　飲物
至て　果實　成熟　時限　外
美食

○汝、食事を、なさい
○汝ハ、何を、好ミ、まさろ
○私ハ、肉を、嗜ミまさ

○汝ハ、獸肉と鳥肉を、好ミまさろ
○私ハ、滋養ふなる、食物を、好ミまさ
○汝ハ、魚肉を、好ミ、まさろ
○魚肉ハ、鳥獸の、肉よりハ、遥ろ、劣りまさ
○併し、魚肉や、穀菜ハ、温國ふ、住む人ふハ、適宜なる、食物で、有まさ
○寒國の、人ハ、鳥獸の、肉を、好ミまさ

○私ハ、酒を、好ミまを、併し、多くハ、飲ません

○火酒の、類を、多く、飲と、大なる、害ハなりまを

○汝ハ、茶を、好ミまを

○私ハ茶を飲む事ハ至て好きで有まを

○乳汁ハ、淡薄で、あるゝ滋養ハ、肝要の、ものでハ有まを

○架菲ハ、誠ハ、よき、飲物で、有まを

○汝ハ、果實を、好ミまを

○私ハ、成熟したる、果實を、好ミまを

○私ハ、日々、時限の、外ハ、食事、致しません

○不時ハ、飲食をるハ、悪しく、有まを

第十三章

上衣　美　東京　大阪　求　袴
絹　裏　羽織　羅紗　横濱　送り
本町　通　佛蘭西　色　次第
仕立　下着　店　註文　商社
長崎　沓　長靴

○汝の、上衣ハ、大そう、美しい
○何處で、御買ふ
○私ハ、東京で、求め、ました
○大阪で、買ひ、ました
○汝の、袴ハ、絹の、裏で、有ますか
○私ハ、何より、絹を、好みます
○羽織の、羅紗ハ、何處で、御買ふ
○是ハ、横濱より、送り、ました

○羅紗ハ、本町通りの、佛蘭西の、十八番ガ、よいと、申ます

○汝の、マンテルハ、よい色で、有ます

○私の、チョッキと、ヅボンハ、長崎で、仕立ます

○ボタンの、加減ガ、余程、よく、有ます

○下着ハ、色ガ、違て、居ます

○彼店ハ、何でも、註文通り、出来ます

○汝の、御好ミ、次第ニ、なります

○時計の、カクシハ、大きく、致したい

○商社の、皆ハ、出来ガよい

○私、長靴ハ、余り、好ミません

○汝の、傘ハ、未ダ、糸り、ません

○明日ハ、多分、糸りましう

第十四章

幾歳　壯健　左様　若い　區
官　等　米國　在勤　留學
航海　一昨年　支那　倫敦
巴里斯　郵船　昨年　歸朝
本籍　縣　附屬　寄留　貫屬

○汝の、父ハ、幾歳で、有ましたか

○五十二年、三ヶ月

○夫ハ、御若い○左様ふい、思へ、ません

○誠ふ、御壯健で、有ました

○今ハ、何處ふ、御住居、なさるか

○何大區、何小區、何町

○何の、官を、御勤、なさるか

○何官、○何等、

○汝の、兄ハ、何處ふ、御出、なさるか

○彼ハ、米國ヨ、在勤シテ、居マセ
○弟ハ、佛蘭西ヨ、留學、シテ居マセ
○汝ハ、いつ、航海、なされさう
○一昨年の、五月、參りましさ
○支那ふハ、幾月、御出ら
○一月半程、居りました
○倫敦ヨ、八ヶ月余○巴里斯ホ、三ヶ月
程、居りました

○郵船で、昨年の、八、月歸朝、しました
○汝の、本籍ハ、何縣で、有ませう
○私ハ、父の、附屬で、東京、寄留で、有ます
○弟ハ、京都府の、貫屬で、有ます

第十五章

願（ねがひ）　身体（しんたい）　養生（やうじやう）　不養生（ふやうじやう）　病身（びやうしん）

入湯　浴し　清く　余　熱き　毎日
時刻　大食　病氣　元　必　勉強
懈惰　氣　慰　衣服　清潔　汚穢
嫌　言葉　真ふ　信し　嬉し　氣質
譽　自分　勝手　咄

○汝ハ、いつも、壯健で、有ます
○私ハ、何より、無事な、事を、願ひます

○身体ハ、養生、次第で、どうても、成ます
○彼ハ、誠ふ、病身で、有ます
○彼等ハ、常ふ、不養生で、有ます
○私ハ、入湯して、身体を、清く、致します
○汝、余り、熱き、湯ふ、浴してハ、悪しく、有ます
○汝ハ、毎日、食事の、時刻を、御極めなさい

○食事ハ、多く、食ふより、少き方ガよい
と、思ひます
○大食、するとハ、病氣の、元と、なります
○私、食事の、後ハ、必ず、散歩、致します
○勉強も、余り、過ると、害ハ、なります
○又、懈怠も、甚、よくハ、有ません
○私ハ、常ハ、職業を、勵みます○併し、又
勉めて、氣を慰めます
○汝、衣服ハ、いつも、清潔ハ、なれ
○私、衣服の、汚穢を、甚ず嫌ひます
○彼の、言ふ、事ハ、私の氣ハ、入りません
○彼等ハ、自分、勝手なもので、有ます
○汝の、氣質ハ、誰でも、譽ます
○汝の、言葉を、真ま、信します
○私ハ、汝の、咄しを、嬉しく、思ひます

皇朝會話篇卷一

終

習字	輿地誌略	初篇三冊 二篇迭刻 三篇迭刻	西京	出雲寺文次郎
首書	國史訓蒙	初篇三冊 二篇迭刻	書林	勝村治右衛門 上勘兵衛
通俗	窮理ひつもん	全三冊 二三迭刻	大阪	敦賀屋九兵衛
通俗	地理ちりのまなび	全三冊 迭刻	秋田屋市兵衛	
挿譯	英吉利會話篇	全四冊	秋田屋太右衛門	
横文字	早學問	全三冊 獨逸之部 二冊	伊丹屋善兵衛	河内屋勘助
			河内屋茂兵衛	河内屋喜兵衛
			河内屋和勘太	河内屋忠兵衛
			河内屋徳七	河内屋真七
			河内屋新助	河内屋八郎
			書林	堺屋四郎
			名古屋永樂屋	東正兵衛
			書林	萬永樂屋
				東平

横文字運筆自在	全一帖	静岡 沼津 越後 信州 上州 武州 下総 忍	書林 東京
習字單語篇	全八冊 追々出板	須浪 木鳥 中村 小橋 菊崎 長原 杉谷 熊鴻 高前 善光 佐 正原 須原 山田 小林 長門 須原 大江 三河	屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋
洋算初學	全二冊	嶋文 浦田 城原 林門 村江 妻桝	屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋
啓蒙智恵の光	初篇一冊 二篇近刻	堂	平
女童十二月用文	全二冊	喜儀 為左利清茂佐新 惣	文
小學習字鏡	全二冊 近刻	善市浦十作太八源一衛兵太兵兵兵亀佐兵半兵	藏藏吉郎平郎作郎衛門郎衛衛衛七助衛七衛

童子訓	全二冊	東京	松山泉二泉内泉岡萬三桟鳥大紀鈴椀三丁袋藤
通俗理學初歩	全二冊 近刻		小城三野田田部金坂伊木家村屋岡
窮理三字教	全一冊 近刻		屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋
新撰女小學讀本	全二冊		太郎 喜屋
和漢文章	全一冊		善吉彌市吉亀政兵三兵平兵治衛二衛吉兵忠喜兵清藤兵衛布源喜佐兵平衛門衛助衛七衛八藏七衛平衛郎
商家日用新語	全一冊	書林	慶亀次次郎

やまと魂　全一冊

西洋韵字解　全二冊

續習字初歩　全二冊

第一　ウイールソン氏リートル直譯　全一冊

習字草行三字經　全一冊

東京

書林

出雲寺　森屋治兵衛　鳴泉堂利兵衛　大村屋次郎兵衛　須原屋伊八　淺倉屋平助　岡田屋嘉七　鳴泉堂文次郎　紀伊國屋庄兵衛　紀伊國屋徳次郎　近江屋平助　高木金兵衛　蓑田長兵衛　鶴屋喜右衛門　鈴木正三郎　若林恵三郎　山口屋勘兵衛　丸屋善右衛門

皇朝會話編　西野古海著　全

特42
498
内一本

帝國圖書館藏
大倉木數百合世總帥
二 四 函
五 二 架
一 冊 號
TOKYO FU LIBRARY

081569-000-3

特42-498

皇朝会話篇

西野　古海／著

M8
DAC-6287